エコアクション21

2024年度　環境経営レポート

（対象期間 ： 2024年1月～12月）

株式会社　亀屋工業所

発行日　2025年　3月　7日
改訂日　　年　月　日

目次

1. 組織の概要(P2)
2. 対象範囲(P2)
3. 実施体制(P2)
4. 環境経営方針(P3)
5. 中長期の環境経営目標(P4)
6. 2024年度の環境経営目標と環境経営計画、及び実績と取組内容並びに評価結果(P5)
7. 2024年度の部門の環境経営目標と環境経営計画、及び実績と取組内容並びに評価結果(P6)
8. 2025年度の環境経営目標と環境経営計画(P7)
9. 2025年度の部門の環境経営目標と環境経営計画(P8)
10. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無(P9)
11. 代表者による全体の評価と見直しの結果(P9)

1. 組織の概要(事業者名、所在地、事業の概要、事業規模等)

1－1. 事業者名及び代表者名

事業者名　株式会社　亀屋工業所
代表者名　代表取締役　根本　甲

1－2. 所在地

〒317－0064　茨城県日立市神峰町4丁目11番12号
電話　0294－21－4146
E－Mail　info@j-kame.co.jp
URL　http://www.j-kame.co.jp

1－3. 事業の概要

家庭用電気機械器具の製造及びその部品の販売並びに輸出入、工場内機械設備・治具・金型の輸出入、販売及び修理

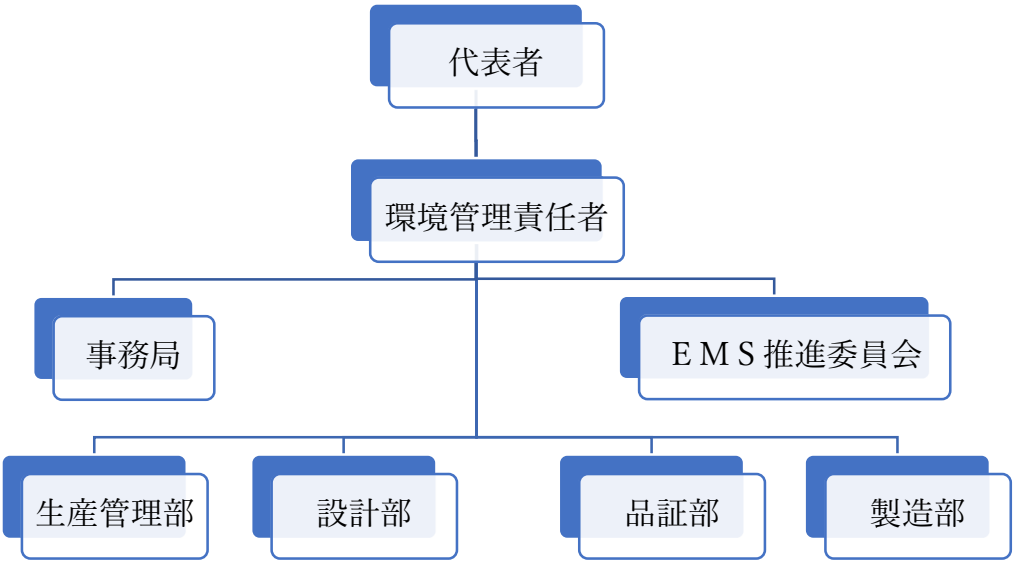
1－4. 事業規模

売上高(2024年)　：　1，133百万円
従業員数　：　68名
延べ床面積　：　3，934m^2
敷地面積　：　3，432m^2

2. 対象範囲(認証・登録範囲)

認証・登録範囲　：　上記「1－1」、「1－2」に同じ

3. 実施体制



環 境 経 営 方 針

基本理念

当社は地球環境の保全が、人類共通の課題であるとの認識のもと、地球環境との共生・調和を配慮した企業活動をあらゆる分野で展開し、かつ、環境保全活動を自主的・積極的に推進し、持続的に成長・発展する社会の構築を目指します。

行動指針

１．環境経営システムを構築、運用、維持し、環境への取組を積極的に推進します。

２．事業活動に伴う環境負荷低減のため、以下の内容に取組みます。
（１）経営における課題とチャンスから、本来業務に関する環境経営目標を設定し、環境への負荷の低減を図ります。
（予算達成、環境製品設計、生産性向上、品質向上、等）
（２）環境への負荷と環境への取組の状況から、環境経営目標を設定し、環境への負荷の低減を図ります。
（CO_2排出、廃棄物排出、水使用、化学物質使用、等）

３．環境経営方針を達成するため、環境経営の継続的改善を推進します。

４．事業活動に適用される環境関連法規等を遵守します。

５．環境経営レポートを公表し、社会とのコミュニケーションを図りながら環境調和を図り、広域的な社会貢献をします。

２００８年４月１４日　制定
２０２１年４月０８日　改訂発行

株式会社　亀屋工業所

代表取締役　　根本　甲

5. 中長期の環境経営目標

目標項目	単位		2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量	kg－CO_2	目標	465, 012	460, 117	455, 222
		実績	435, 478	410, 820	365, 775
電気使用量	kg－CO_2	目標	409, 132	404, 826	400, 519
		実績	359, 491	346, 256	322, 435
灯油使用量	kg－CO_2	目標	4, 795	4, 795	4, 795
		実績	2, 293	3, 090	3, 689
LPG使用量	kg－CO_2	目標	210	210	210
		実績	210	93	97
ガソリン使用量	kg－CO_2	目標	22, 828	22, 828	22, 828
		実績	11, 323	9, 902	8, 301
廃油排出量	kg－CO_2	目標	870	870	870
		実績	1, 450	2, 262	1, 769
廃プラ排出量	kg－CO_2	目標	30, 170	30, 170	30, 170
		実績	60, 710	49, 218	29, 484
廃棄物排出量	t(トン)	目標	40. 73	40. 73	40. 73
		実績	50. 77	46. 31	33. 47
水使用量	m^3	目標	1, 279	1, 279	1, 279
		実績	899	1, 029	1, 273
化学物質	※	目標	適正管理	適正管理	適正管理
		実績	適正管理	適正管理	適正管理
売上高	%	目標	100	100	100
		実績	89	115	66

《備考》
①購入電力の二酸化炭素排出量は、2017年度の温室効果ガス排出量を算出する際に用いる係数「0. 486kg－CO_2kwh」(東京電力エナジーパートナー　株式会社)を使用する。
②二酸化炭素排出量及び電気使用量の目標は、2017年度の実績を基準として、毎年1%の削減とした。二酸化炭素排出量、電気使用量以外の目標は、2017年度の実績を基準として、毎年基準年より増加しないよう、維持管理とした。
③LPG使用量については、2018年度より新規暖房を設置したことにより、2018年度実績を基準として、毎年基準年より増加しないよう、維持管理とした。
④化学物質については、取引先との関係で、削減困難であるため、適正管理とした。
⑤売上高については、社内評価として新年度スタート時の予算値を100として評価する。

6．2024年度の環境経営目標と環境経営計画、及び実績と取組内容並びに評価結果

目標項目	単位	目標／実績		取組内容	評価結果
二酸化炭素排出量	kg－CO_2	目標	455,222	部門活動により、全体の約8割を占める電気使用量を削減すると共に、灯油、LPG、ガソリン、廃油、廃プラの適正管理を行なう。	目標達成 ・今年度、廃プラについて排出量を大幅に削減することができた。
		実績	365,775		
電気使用量	kg－CO_2	目標	400,519	部門活動、空調の適正化（夏季・冬季で適正な温度設定管理をする。）、電気の無駄な使用の改善、蛍光灯のLED化推進、他	目標達成 ・次年度以降、作業現場の集約化、LED 化を中心に電気量削減を図る。
		実績	322,435		
灯油使用量	kg－CO_2	目標	4,795	部門活動、暖房の適正化（適正な温度設定管理をする。）、他	目標達成 ・活動継続（異常値管理）
		実績	3,689		
LPG使用量	kg－CO_2	目標	210	部門活動、LPG使用の適正化、暖房の適正化（適正な温度設定管理をする。）、他	目標達成 ・活動継続（異常値管理）
		実績	97		
ガソリン使用量	kg－CO_2	目標	22,828	部門活動、ガソリン使用の適正化、エコドライブの実践、顧客先へ出向いての打合せ減（電話、メール、リモート会議等活用）他	目標達成 ・コロナ後、顧客先での打合せからリモート会議等に変化。今後も活動継続する。（異常値管理）
		実績	8,301		
廃油排出量	kg－CO_2	目標	870	部門活動、資源のリサイクル化、廃プラ類の資源のリサイクル化、廃プラ排出量の削減、他	ﾎﾟｯﾃｨﾝｸﾞ使用製品の生産が増え定期的な排出量が増えた。また通常製品以外に発生する、試作品、設備ﾒﾝﾃ油、ﾍﾟﾝｷ等について使用後の廃却量が少なくなるよう注意する。
		実績	1,769		
廃プラ排出量	kg－CO_2	目標	30,170		目標達成 ・成形後に排出される、廃プラに関して大幅に削減することができた。（廃却から有価品へ切替）
		実績	29,484		
廃棄物排出量	t（トン）	目標	40.73		目標達成 ・廃プラの削減より、大幅に削減することができた。
		実績	33.47		
水使用量	m^3	目標	1,279	水道管の漏水点検（上水）、ポンプ寿命試験の節水、他	目標達成 ・活動継続（異常値管理）
		実績	1,273		
化学物質	※	目標	適正管理	定期的な棚卸し、廃棄に繋がる不良の削減	・活動継続（異常値管理）
		実績	適正管理		
売上高	%	目標	100	部門活動による売上高の確保	年間を通し顧客受注が落ち込み売上が低迷した。
		実績	66		

《備考》 廃棄物排出量は一般廃棄物と産業廃棄物を合わせた値とする。

7. 2024年度の部門の環境経営目標と環境経営計画、及び実績と取組内容並びに評価結果

(1)設計部門

目標項目		単位	2024年度	取組内容	評価結果
売上確保・拡大 (製品売上)	目標値	%	100	売上確保	白物家電全体も売りが伸びず、主要顧客の売上減少が大きく影響し、目標未達であった。
	実績値	%	66		
売上確保・拡大 (新規売上)	目標値	%	100	提案型新製品の開発及び 新分野への参入	新規顧客開拓、製品の使用数増により新製品の売上は過達となった。
	実績値	%	124		
総コスト低減 (VEC活動)	目標値	%	100	直材費、加工費、梱包輸送費の 低減、部品点数の削減、 特殊仕様排除、部品共用化	目標は未達となったが、年度末にVEC 案を積み上げたので、来期で適用していく。
	実績値	%	0		

(2)製造部門

目標項目		単位	2024年度	取組内容	評価結果
生産効率向上 (ST低減)	目標値	%	100	生産ライン・設備の改善及び構築、 セル生産方式の導入拡大	目標の改善件数、セルライン化共に達成し、5%のST低減目標を達成した。 今後も継続実施する。
	実績値	%	100. 8		
成形機 稼働率向上	目標値	%	100	内作化推進 MT停止時間短縮	作業量による計画停止時間増での目標未達であった。稼働率向上に向けて今後も継続実施する。
	実績値	%	88		

(3)生産管理部門

目標項目		単位	2024年度	取組内容	評価結果
総コスト低減 (異常費低減)	目標値	%	100	誤出荷および手配漏れを防止	作業ミスを大幅削減ができ、 目標達成ができた。
	実績値	%	1, 214		
総コスト低減 (購入費低減)	目標値	%	100	低減活動対象社の選定 最新価格の把握	昨今の価格高騰の中、値下げ交渉は目標未達となった。 少しでも下げるように努力する。
	実績値	%	51		

(4)品質保証部門

目標項目		単位	2024年度	取組内容	評価結果
新製品不良撲滅 (設計不良)	目標値	%	100	論理的思考、実験・試験検証、 設計変更点管理、DR参加、 Cp値活用、他	顧客との仕様打合せが不十分な点が見られた。仕様打合せの更なる充実化をDR 等で発信する。
	実績値	%	0		
社外不良低減 (日立 GLS、他)	目標値	%	100	早期原因調査と是正、 作込不良・見逃不良の未然 防止、作業マニュアル検証、他	社外不良は目標を達成したものの、不良に対する意識は十分とは言えない。さらに、意識向上を図る。
	実績値	%	100		
社内不良低減	目標値	%	100	商用検査不良の原因調査と対策、 作込不良・見逃不良の 未然防止、作業マニュアル検証、他	社内不良低減会議の継続により、問題点の改善等を各部の協力得て実施してきた効果と考える。
	実績値	%	200		

《備考》
2024年度の目標値を100%として、削減と拡大の夫々に対して減少と増加を算出した。

8. 2025年度の環境経営目標と環境経営計画

目標項目	単位	目標／実績		取組内容	評価結果
二酸化炭素排出量	kg－CO_2	目標	346, 164	部門活動により、全体の約8割を占める電気使用量を削減すると共に、灯油、LPG、ガソリン、廃油、廃プラの適正管理を行なう。	
		実績			
電気使用量	kg－CO_2	目標	300, 571	部門活動、電気使用の効率化（生産ラインの集約化、LED 化推進）、空調の適正化（夏季・冬季で適正な温度設定管理をする。）、他	
		実績			
灯油使用量	kg－CO_2	目標	4, 795	部門活動、暖房の維持管理（適正な温度設定管理をする。）、他	
		実績			
LPG使用量	kg－CO_2	目標	210	部門活動、LPG使用の維持管理、暖房の適正化（適正な温度設定管理をする。）、他	
		実績			
ガソリン使用量	kg－CO_2	目標	22, 828	部門活動、ガソリン使用の維持管理、エコドライブの実践、顧客先へ出向いての打合せ減（電話、メール、リモート会議等活用）他	
		実績			
廃油排出量	kg－CO_2	目標	2, 160	部門活動、資源のリサイクル化、廃プラ類の資源のリサイクル化、廃プラ排出量の削減、他	
		実績			
廃プラ排出量	kg－CO_2	目標	15, 600		
		実績			
廃棄物排出量	t（トン）	目標	40. 73		
		実績			
水使用量	m^3	目標	1, 279	水道管の漏水点検（上水）、ポンプ寿命試験の節水、他	
		実績			
化学物質	※	目標	適正管理	定期的な棚卸し、廃棄に繋がる不良の削減	
		実績			
売上高	%	目標	100	部門活動による売上高の確保	
		実績			

《備考》

① 購入電力の二酸化炭素排出量

・2025 年度使用係数:0.376kg－CO_2kwh 東京電力ｴﾅｼﾞｰﾊﾟｰﾄﾅｰ株式会社 2022 年度を使用する。

※目標値に関しては 2024 年度まで使用していた係数 0.486 の 77.4%相当として算出する。

9. 2025年度の部門の環境経営目標と環境経営計画

(1)設計部門

目標項目		単位	2025年度	取組内容	評価結果
売上確保・拡大 (製品売上)	目標値	%	100	売上確保	
	実績値	%			
売上確保・拡大 (新規売上)	目標値	%	100	提案型新製品の開発及び 新分野への参入	
	実績値	%			
総コスト低減 (VEC活動)	目標値	%	100	直材費、加工費、梱包輸送費の 低減、部品点数の削減、 特殊仕様排除、部品共用化	
	実績値	%			

(2)製造部門

目標項目		単位	2025年度	取組内容	評価結果
生産効率向上 (ST低減)	目標値	%	100	生産ライン・設備の改善及び構築、 セル生産方式の導入拡大	
	実績値	%			
成形機 稼働率向上	目標値	%	100	内作化推進 MT停止時間短縮	
	実績値	%			

(3)生産管理部門

目標項目		単位	2025年度	取組内容	評価結果
総コスト低減 (在庫低減活動)	目標値	%	100	在庫管理強化 在庫金額，維持月数を把握し、 在庫低減する	
	実績値	%			
総コスト低減 (購入費低減)	目標値	%	100	低減活動対象社の選定 最新価格の把握	
	実績値	%			

(4)品質保証部門

目標項目		単位	2025年度	取組内容	評価結果
新製品不良撲滅 (設計不良)	目標値	%	100	論理的思考、実験・試験検証、 設計変更点管理、DR参加、 Cp値の活用、他	
	実績値	%			
社外不良低減 (日立 GLS、他)	目標値	%	100	早期原因調査と是正、作り込み不良・見逃不良の未然防止、作業指示書を含め検証、他	
	実績値	%			
社内不良低減	目標値	%	100	商用検査不良の原因調査と対策、作り込み不良・見逃不良の未然防止、作業指示書を含め検証、他	
	実績値	%			

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

(1)主な環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

	環境関連法規等	要求事項の概要	評価結果
1	廃棄物処理法	委託契約書、マニフェスト管理票の管理、他	遵守
2	騒音・振動規制法	特定施設の届出、環境測定	遵守
3	フロン排出抑制法	簡易点検(1回／3ヶ月)	遵守

(2)環境関連法規等に関して、違反、訴訟等は過去1年間、ありませんでした。
(3)外部情報に関して、外部からの環境に関する苦情や要望は過去1年間、ありませんでした。

11. 代表者による全体の評価と見直しの結果(代表者から環境管理責任者への指示内容)

	項目	変更	代表者の指示内容
1	環境経営方針	有り (無し)	2021 年 4 月 8 日に改訂発行した環境経営方針に変更は必要ないと考え、これを継続する。
2	環境経営目標	有り (無し)	2024 年度の中長期環境経営目標は、廃油使用量が実態とかけ離れており、この整合を考慮した目標値へ見直しが必要である。その他の資源の排出実績は目標をクリアしているので、これを継続して行く。又各部門の計画達成状況は、売上げ減少の影響も有るが、その他部門としての責務を考えた場合に、目標へのアタックの視点を変えることも必要なので、これを考慮したアクションを進めて欲しい。
3	実施体制	有り (無し)	特に変更の必要性は無いと考える。
4	その他	有り (無し)	2024 年度は、残念ながら売上はこれまでにない数値へ落ち込んだ結果となった。弊社の売上は各顧客先の売上に連動する構造となっている。このため売上が低下すると、全ての事業運営がデフレ現象のように後ろ向きの対応となってしまい、何とかしてこれを打開しなければならない。この為には各部門が連携して、新規の受注獲得も含めた活動で挽回しなければならない。このような状況下こそ各部門の結束力を高める好機ととらえて、経営改善に向け推し進めて行く。

以上